

進路だより

vol.02

キャリア教育の実践 小学部編

キャリア教育は「子どもたちが夢や憧れをもって、なりたい自分に近づく」ための教育です。

ここでは、本校のキャリア教育の実践について紹介していきます。



将来の生活を目指して小学部段階からできること ～誰かのために役割を果たす～

「学校卒業後の生活に向けて小学部段階からやっておくことは何ですか？」という類の質問を受けることがあります。「生活する力」や「働く力」を身に付けるために、自分の身の回りのことを自分でやろうとしたり、自分でできるようになったりすることはもちろん大切な取り組みです。一方で、誰かのために「役割」を果たそうとすることも将来の生活に向けて大切な力の一つです。「働く」とは、「傍（はた）を楽にする」こととされています。自分の行為が周りの人のためになったと感じられるよう、小学部では、日頃から様々な場面において「役割」を果たす取組をしています。朝の会で活動毎に役割分担をしてそれぞれの役割を果たしたり、給食後にゴミ箱に溜まったゴミを集積場に捨てに行ったりという具合です。御家庭でも、食事した食器のどれかを下膳したり、玄関のスリッパをきれいに並べたりなど、家族の一員としてちょっとした役割を果たすところから始められます。そして、子どもが自分の役割を果たしたときには「ありがとう！助かったよ」と伝えてみてください。

最後に、朝の会や集会のときに、前に出て役割を果たす人とともに、それに注目したり、その人のために話を聞こうとしたりすることも集団の中で「役割」を果たすと捉えられます。生活の中に散りばめられている様々な「役割」に着目してみませんか？
(小学部主事 後松)

校長先生は就労支援のエキスパートです。 「教えて！校長先生」②

今回は、障害がある方の社会参加に関する制度を紹介します。

日本では、法律により企業が障害のある方を雇用することが義務付けられています。この法定雇用率は、2023年4月現在で2.3%、3年後の2026年4月からは2.7%の割合となります。国及び地方公共団体ではより高い割合が定められています。秋田県でも、障害がある人の雇用が推進されてきており、出先で本校の卒業生の先輩が働いている様子を見ることがあります。現状、まだまだ全ての企業がこの割合を達成できていません。しかし、近年では、企業において年齢・性別・人種などの多様性（ダイバーシティ）の保証の考え方の浸透、企業として社会に対する責任を確実に果たすこと（CSR）、持続可能な開発目標（SDGs）への賛同など、障害のある児童生徒の社会参加を支える機運が高まってきている状況が伺われます。これらの機運が障害がある児童生徒の社会参加の追い風になってくれることを期待しています。
(校長 前原)

※「教えて！校長先生」は、vol.4 vol.6 vol.9 vol.12
でお伝えしていきます。

保護者からのQ&A

保護者からのQ&Aのコーナーでは、保護者の皆様からの進路に関する御質問にお答えしていきます！右のQRコードを読み込み、気軽に御質問ください。



QRコードを
読み込んでください



保護者から卒業後の就業先や就業時間、賃金についての御質問がありました。
次号でお伝えしていきます！
御質問ありがとうございました！

